Intertek Certification Japan Limited

Intertek News

Intertek
Valued Quality. Delivered.

ISO関連季刊情報誌（年4回発行）

Vol.52（2016年4月発行）

認定されたマネジメントシステム 認証機関としての品質管理

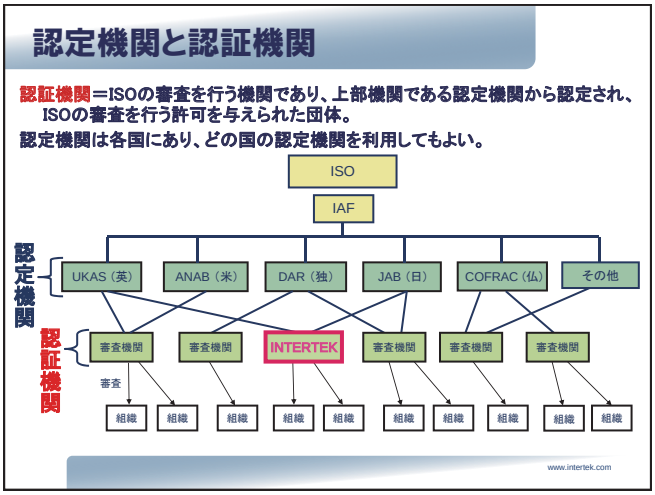
品質管理室

われわれ認定された認証機関は、その能力、公平性、組織の安定性等の規格要求事項（ISO/IEC 17021：適合性評価－マネジメントシステムの審査及び認証を提供する機関に対する要求事項）に適合しているかについて、認定機関から審査を受けて活動しています。

認定機関とは、イギリスのUKAS、アメリカのANAB、日本ではJAB（公益財団法人日本適合性認定協会）といった機関があり、インターテックは全世界においてたくさんの認定機関から認定を受けています。日本での認証についてはUKAS及びJABの認定のもと審査を行っています。

また各国の認定機関は、認定機関間の技術的レベルの整合や相互承認協定を締結するために国際機関に加盟しています。UKAS・JABといった認定機関は、IAF（国際認定機関フォーラム）に加盟し相互承認協定を締結しています。

インターテック・サーティフィケーションは認定された認証機関として前述の認証活動能力、公平性、組織の安定性等の規格要求事項を満たすことは勿論のこと、お客様の声をお聴きし日々改善に取組んでいくよう努力してまいります。審査及びその他サービスにつきまして、お気付きの点等がございましたら遠慮なくご連絡いただけますよう、お願い申し上げます。



CONTENTS

01 認定されたマネジメントシステム 認証機関としての品質管理

02 03 特集 ISO9001:2015、ISO14001:2015 改訂版への移行準備と事例紹介
－2015年版への移行準備について
－事例紹介（森若建設株式会社）

04 News & Topics
－CSS技術開発様「勇気ある経営大賞」受賞
－アグロ・イノベーション2015に出展
－JRCA講演会開催
－Information：認証マークについて

05 審査の現場から
－お客様紹介（三菱重工コンプレッサ株式会社）

06 連載よみもの
－審査員リレーエッセイ「審査員日誌」（審査員　松山 文雄）
－環境とISO14001「COP21／パリ協定」

07 お客様からのお便り
－「神戸発・優れた技術」（安福ゴム工業株式会社）
－「世間に役立ち、なくてはならない存在となること」（株式会社フクザワコーポレーション）

08 研修コースのご案内
－「Intertek News」電子版へ移行のお知らせ
－コース案内/受講生からのお便り

－ 改訂準備に向けて －

ISO9001:2015、ISO14001:2015 改訂版への移行準備と事例紹介

昨年9月にISO9001：2015、ISO14001：2015が発行されました。ISO9001：2008及びISO14001：2004の認証を取得されているお客様は、それぞれ2015年版へ移行頂く必要があります。移行準備と2015年版規格での受審事例として、森若建設株式会社様をご紹介いたします。（編集部）

特集1 2015年版への移行準備について

QMS認証部スキームマネージャー補佐　堤 倫礼

ISO9001：2008、ISO14001：2004を認証されているお客様へ

2015年版への移行のご準備はいかがでしょうか。皆様に発行していますISO9001:2008、ISO14001:2004認証の規格としての有効期限は2018年9月14日までです。それ以降は、それぞれの規格が失効するため、ISO9001:2008、ISO14001:2004の審査が有効なものではなくなります。

例えば毎年11月に、弊社の審査を受審されているお客様の場合、今年（2016年）か来年（2017年）の11月の2回の審査のうち、そのどちらかの審査で2015年版への移行をお願いすることになります。

2015年版への移行の審査のご予定が決まりましたら、弊社ホームページ（認証企業様ページ）より、申請書及びギャップチェックリストを入手いただき、ご提出をお願いいたします。

移行される時期については、皆様のご都合を踏まえてご検討ください。

移行審査について

さて、移行の審査の際は、2015年版での新規の要求事項については、必ず審査にてその対応状況を確認いたします。例えば、QMSの場合、4.1組織及びその状況の理解、4.2利害関係者のニーズ及び期待の理解、4.3品質マネジメントシステムの適用範囲の決定、4.4品質マネジメントシステム及びそのプロセス、5リーダーシップ、6.1リスク及び機会への取組みがあります。

EMSの場合も同様です（4.1、4.2、4.3、4.4、5、6.1.1、6.1.4）。6.1.2環境側面では「ライフサイクルの視点を考慮する」ように書かれてありますが、難しいことを要求しているのではありません。組織が管理できる又は影響を及ぼすことができるライフサイクルの段階について注意深く考えることで十分です。規格の要求事項の後に書かれた、附属書Aが大変参考になります。

各項目のタイトルだけ見ますと、大変だというご印象をお持ちになるかもしれません。ただ、普段組織運営を行っておられます皆様においてはごく当然のことかと思います。

例えば、“利害関係者のニーズ及び期待に理解”について、皆様が普段お仕事をされる中で利害関係者はどなたたちですか。もちろん貴社のお客様（顧客）、関係省庁など、様々な方がいらっしゃると思います。その方々（利害関係者）の貴社に対しての要求はなんでしょうか。顧客は当然、定められた品質のものを定められた納期に納めることでしょうし、関連省庁については、決まった関連法令を満たしたうえで企業に業務を行ってもらうことでしょう。それらの要求について皆様が定めるルールできちんと把握してくださいということが規格の解釈の一つかと思います。

規格の言葉になりますといかにも窮屈な感じを受けますが、普段の活動でどこが規格の要求事項にあてはまるのか、それはどう貴社のマネジメントシステム（仕組み）に落としこむのか。せっかくの規格の改訂ですので、より普段使い出来る仕組みの構築をご検討ください。

最後に

最後によくご質問をいただく、規格の入手方法に関しましては、大手書店並びに書籍通販サイトなどでも購入することが出来ます。JIS版については昨年11月に既に発行されておりますし、皆様がよく活用されています“対訳 ISO 9001:2015（JIS Q 9001:2015）品質マネジメントの国際規格 ［ポケット版］”（ISO14001も同様）に関しましても、今年2月26日に発売されていますので、同じく大手書店等でご購入頂けるかと思います。

2015年版移行に関しますご質問についても、弊社東京事務所 QMS（ISO9001）／EMS（ISO14001）各認証部、また各地区の営業担当までお気軽にお問い合わせください。

堤 倫礼 （つつみ とものり）
インターテック・サーティフィケーション QMS認証部スキームマネージャー補佐。品質・環境審査員。㈱インクスエンジニアリングを経てインターテックへ。自動車関連設計開発、金型設計開発専門。

特集 2 事例紹介

ISO9001：2015年版審査を振り返って

森若建設株式会社 代表取締役 森若 淳一

当社は、昭和48年設立、北海道・道東の特定建設業です。ISO9001は、経営事項審査の加点対象になるだけではなく「会社を良くする為のツール」として平成15年に認証取得する事となりました。その後の取組みとして、私は平成17年にQMS審査員資格を取得し、週例会議及びISO勉強会を行い、結果としてISOに対する習慣がつき、会社も変わり、社員も変ったと実感しています。

今回のISO9001:2015の構築に当たっては、平成27年9月よりマニュアルの作成を始め、同年10月に内部監査とマネジメントレビューを実施し、11月4日・5日に審査を受けました。2015年版の改訂のポイントとして、4章では、組織の外部及び内部の課題を明確にし、顧客だけではなく利害関係者のニーズ及び期待を広く理解し、この事に対してQMSの適用範囲を決定する事が要求されています。

5章では、トップマネジメントの関与の強化及びISO活動と事業活動の一体化を要求されています。6章では、リスク及び機会を特定し、その取組みが、潜在的な影響と釣り合いのとれたものでなければならない事を要求されています。7章では、文書と記録の要求がなくなり文書化した情報の保持が要求されています。

8章では、アクシデントが発生した場合の取組み方法の構築が要求されています。9章では品質パフォーマンス及びQMSの有効性を評価する事、つまり結果の重視について要求されています。

2015年版審査では、重要な改訂ポイントとしての上記の章について実施されました。今後は、2015年版認証取得をきっかけに新たな始まりとして、当社の品質方針を基に会社の発展と地域社会への貢献を、全社員で目指す事が経営者の責務と考えています。

北海道十勝総合振興局主催 優秀技術者表彰式にて（過去2度の受賞）
ー最後列左から3番目 代表取締役 森若淳一 氏

CSS技術開発様「勇気ある経営大賞」受賞

弊社でISO27001の認証登録をされている株式会社CSS技術開発（本社：東京都多摩市）様が、東京商工会議所主催の第13回「勇気ある経営大賞2015」優秀賞を受賞されました。「勇気ある経営大賞」は、厳しい経営環境の中で勇気ある挑戦をし、革新的あるいは創造的な技術・技能やアイデア・経営手法等により、独自性のある製品・サービスを生み出している中小企業・グループを顕彰する制度です。

CSS技術開発様は、今年創業31年目を迎えられ、測量サービス・ソフト開発・販売、測量機レンタル業を中心に事業展開されています。今回の受賞では、同社開発の測量用ソフトウェアがライバル会社に違法コピーされるなど、様々な困難に遭いながらも、更なる技術向上を図り、新規分野への進出に繋げて事業を大きく拡大されてきたことが高く評価されました。また、同社では社員のワークライフバランスの充実にも努められ、顧客・社員の満足度向上を目指されています。

今回の受賞を受け、会長の高城雄三氏は、「30年間の様々な苦労や失敗をバネに会社が発展してきました。お客様と従業員をはじめとした多くの方々のご理解とご協力があってこその受賞と深く感謝しております。」とコメントされています。CSS技術開発様の今後の活動展開が益々期待されます。

アグロ・イノベーション2015に出展

2015年11月18日～20日に東京ビッグサイトで開催されましたアグロ・イノベーションに出展しました。展示会は農場経営者、官公庁、商社、食品メーカー等多様な出展があり、期間を通じて約17,000人の方がご来場され、最新技術の情報交換や新たなニーズの発見など、活気ある展示会となりました。

インターテックは、9年前からJGAP/GLOBALGAPの審査・認証機関として参加しており、GAP取得のメリットや必要性を紹介して参りました。今回は弊社食品認証部長の内田が、「農産物生産現場におけるリスク管理について」講演を行いました。

昨今、食品安全が不安視されるなか、適切な農場管理、生産現場から食卓までを一貫して繋ぐシステムの構築が求められています。JGAP/GLOBALGAPにご興味がございましたらお気軽にお問い合わせください。

上）展示ブース
下）弊社食品認証部長 内田修一による講演風景

JRCA講演会開催

弊社審査員も審査員資格を登録している一般社団法人日本規格協会マネジメントシステム審査員評価登録センター（JRCA）主催の講演会が1月に東京と大阪で開催されました。今回は、「ISO9001:2015の改訂内容」について行われ、規格作成に携われた講師より改訂の目的に関する説明がありました。

- 今後10年以上先を見据え、2000年の大改訂以降の品質マネジメントシステムの慣行及び技術の変化を考慮し、今後10年以上にわたって安定して利用できる要求事項を提供する。
- ますます複雑で、厳しく、動的になる、組織の事業環境の変化を反映した要求事項になる。
- 組織による効果的な実施、並びに第一者、第二者及び第三者による効果的な適合性評価を容易にする。
- 要求事項を満たしている組織への信頼感を与えられるような規格とする。

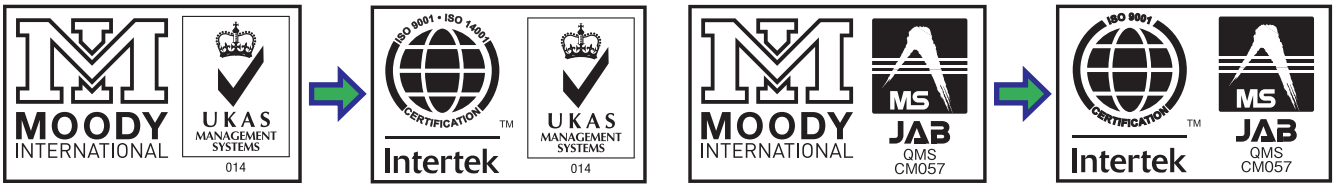
（JIS Q9001:2015解説の2：今回の改正の趣旨より）

同様の講演会は、CEARやIRCAなど他の審査員資格登録機関でもほぼ毎年開催されており、弊社審査員も参加して情報更新や資質向上に役立てています。

INFORMATION

認証マークについて

認証マークの変更期限は、2017年4月1日です



インターテック・サーティフィケーション株式会社への社名変更に伴い、お客様へお願い致しております認証マーク変更期限が残り約1年になりました。印刷物等に認証マークをご使用で未だ変更されていないお客様は、期限までに変更して頂きますようお願い申し上げます。

ご不明な点やマークの電子データの取得に関しては、info.ba-japan@intertek.comからお問い合わせください。

コンプレッサ用テストスタンド

お客様紹介

三菱重工コンプレッサ株式会社 様

（ISO9001：2008 認証登録）

〔取材者〕 審査員 **美濃 英雄** *Hideo Mino*

三菱重工コンプレッサ株式会社（MCO）様は、三菱重工業株式会社（MHI）のコンプレッサ事業部門が2010年に独立、三菱重工業の100％出資会社として誕生しました。同社は、石油・ガスなどの資源・エネルギー開発の現場や、エチレンや肥料といった化学製品を生産する工業プラントで用いられる大型コンプレッサと駆動用蒸気タービンを製造する世界トップクラスの回転機器専業メーカーです。世界60カ国超に向け年間100台を出荷、累計で4,000台を超える納入実績を持ち、お客様の声にスピーディにお応えできるよう、米国、英国、ブラジル、サウジアラビアに営業、製造、サービス拠点を有しています。また、中国、ロシア、韓国メーカーへの製造ライセンス供与や、海外現地生産等、グローバルな協業関係構築にも積極的に取り組まれています。

三菱重工コンプレッサ様単独としては、2011年よりISO9001を運用され、2015年12月にインターテックに審査機関を変更されました。変更審査は、広島の本社と東京事務所（営業統括センター）の2サイトにて、審査員3名にて行いました。

同社の主要製品は、遠心コンプレッサと駆動用蒸気タービンです。エチレン、肥料、石油精製など数多くの化学プラントに納入されている同社の遠心コンプレッサ及び駆動用蒸気タービンは、プラントの心臓部として活躍しており、世界の石油化学工業の発展に寄与しています。また、世界各地の天然ガス液化（LNG）基地、ガス処理、ガス生産基地、ガス輸送用パイプラインなどにも数多く納入され、化学工業用原料の供給や天然ガスエネルギーの安定供給に貢献しています。同社の遠心コンプレッサはこれまでに培ってきた豊富な経験と実績を活かし、また最新の技術を駆使した個別最適設計、完全3次元羽根車、回転軸系制振装置などの採用により高品質、高効率、高信頼性、卓越した保守性を実現しています。駆動用蒸気タービンでは同社の豊富な実績に裏付けされた信頼性と最新技術の適用による高い性能で世界トップクラスの地位を確立しています。

工場は、年産200万トンまでの大型エチレンプラントのニーズに対応した世界最大規模のテスト設備を備え、出荷前にコンプレッサと駆動用タービンを連結させた試運転（ストリングテスト）を行うことができます。素材加工から出荷までISO9001をベースに一貫した品質管理と生産管理体制を確立され、コンプレッサパッケージ全体に対する信頼性を確保することで、お客様から高い評価を得られています。

大型機械組立工場（広島市）

2015年改定に向けて、同社ご担当者様は、すでに大枠を把握されており、「遅くとも2年後迄には、慌てること無く対応できる」とのことでした。

http://www.mhicompressor.com/

審査員リレーエッセイ㊿

From
東京都杉並区
松山 文雄
（まつやま　ふみお）

Profile
専門分野：ISO9001・ISO14001・OHSAS18001－金属材料、金属製品
経　　歴：住友金属鉱山株式会社、日本化学キューエイ株式会社、インターテック審査員（現職）

審査員からのエッセイをお楽しみください。

「審査員日誌」

時間管理には、気を使っている。お客様へは、早く着きすぎず、遅れず‥で審査員の皆様は皆同じと思う。

昨年、サイトが6つ、審査員総勢7人の審査があった。お客様からのご希望で事前の打合せに出向き、この時、次回訪問時のために、道順をよく確かめた。“駅を出て、「マクドナルド」の右の通りを入っていくと、お客様のビルディングが見えて来る”と。

さて、審査日を迎え、同行審査員と、お客様の会社へ向かう。“駅を出て、「マクドナルド」の右の通りを入り‥。”しかし、全然、お客様のビルディングが、目の前に現れてこない！時間は迫り、追い詰められ、浮き足立つ！同行審査員が、助けてくれて、間一髪すべりこむ！。なぜ、こんなことになってしまったのか？　‥駅を中心に、斜め対称位置に、もう一つ「マクドナルド」があったのである。いまでも、時に思いだす。「あんなことってあるのか‥」と。

連載「環境とISO14001」㊿

「COP21／パリ協定」

環境主任審査員　**郷古 宣昭** *Nobuaki Goko*

COP21（気候変動枠組条約締約国会議第21回会合）は2015年12月12日の夜、2020年以降の地球温暖化対策の新たな枠組「パリ協定」を採択して終了しました。条約に加盟する全ての国（196カ国・地域）が温暖化阻止に踏み出した歴史的な出来事です。この協定の概要は以下の通りです。

1. 長期目標の制定

世界の気温上昇を産業革命前2℃未満に抑えるとともに、1.5℃以内を目指して努力する。また、21世紀後半には温室効果ガスの排出を森林・海洋吸収分とバランスさせる実質ゼロ（気候中立）を目指す。

[2℃未満]はIPCC（気候変動に関する政府間パネル）の科学的知見を踏まえCOP16（2010年のカンクン）で合意されたものであり、21世紀後半の[ゼロ目標]は今回新たに加えられたものです。[1.5℃の努力目標]は実現可能かどうかは別として、既に温暖化の被害に苦しむ島嶼国・脆弱国の悲痛な叫びを無視できなかったために加筆されたものと思われます。[温室効果ガスの実質ゼロ]は低炭素社会に向かう世界のビジョンを明確にしたものであり、各国のエネルギー政策の基礎となるべきものです。

2. 各国の温室効果ガス削減目標

途上国を含むすべての国が自主目標を5年ごとに提出する。この目標を「作成」し、国連に「提出」し、これを「保持し続ける」こと、これに必要な「国内措置を実施する」ことの4項目が義務付けられた。また、5年ごとに提出する新しい目標は古い目標より強化することが明記されている。

現在提示されている多量排出国の目標を**付表**に示したがこれらが達成できても2℃未満は達成できないことが明らかなことから、5年ごとの見直しで更なる上乗せを求めています。自主目標の考え方は全ての国の参加を促すための前提条件であり、協定からの安易な離脱は許さず、データの透明化と定期的な検証により厳しく評価されることになります。

付表
主要国の申請削減目標（2016年1月現在）

国・地域	達成年	温室効果ガス削減量
中国	2030年	2005年の60-65%削減（GDP当り）総排出量で減少に転ずる
米国	2025年	2005年の26-28%削減
EU	2030年	1990年の40%削減
インド	2030年	2005年の33-35%削減（GDP当り）
ロシア	2030年	1990年の25-30%削減
日本	2030年度	2013年の26%削減

3. 資金援助、損失と被害

コペンハーゲンで（2009年）合意された先進国による1000億ドルの資金援助は2020年以降1000億ドルを下限として継続する。ただし、先進国以外の国も資金援助に参加する。

1000億ドルの数字は残ったものの先進国側の体力の低下から「合意」に至らず法的拘束力のない「決定」に格下げになりました。COP20で提起された温暖化による島嶼国・脆弱国の損失・被害の補償問題に関して、彼らの要求した「気候変動難民対策機構」の設立は見送りとなりました。

4. 二国間クレジット

途上国に技術・資金を援助して途上国の温室効果ガス削減の寄与分を自国の削減量に編入できる制度は「パリ協定」の下で一応認められた。

日本が精力的に進めてきた分野であり、今後は国連のルール下で進めることとなります。

5. 発効要件

55カ国及び世界の排出量合計の55%を超える国の批准が必要。

米国議会が批准するかどうかも予断を許さない状況であり、米国の批准が協定の発効を左右することになります。

次回は企業の経営に影響を与える可能性のある「ESG（環境・社会的責任・ガバナンス）投資」の動きを紹介します。

神戸発・優れた技術

安福ゴム工業株式会社 (ISO9001:2008、14001:2004認証登録)

代表取締役社長　安福 忠昭

当社は1963年創業、工業用ゴム製品メーカーとして、工業の町「神戸市」で産声をあげ、以来、金型設計、原材料から製品まで一貫した製品造りを行っています。2000年にISO9001、2005年にISO14001を取得しました。

「良い物を早く安く造り、お客様に喜んで頂くための、相互信頼の基盤に立った活動」をモットーに、オートバイや四輪バギー、ジェットスキー、ゴルフカート、自動車等に使用される、工業用ゴム製品ならびに樹脂製品を主製品として、ヤマハ発動機㈱、川崎重工業㈱、スズキ㈱、ホンダ技研工業㈱、三菱電機㈱、ヤンマー㈱などの日本を代表する大手企業様を直接の取引先としてビジネス展開を図っています。又大手企業様のティア1メーカーとして、製品のモデリング段階から製品開発業務に参加し、製品のモデル形状を基に、使用材料の検討、技術面からの量産性検討、問題箇所の指摘と改良案提示、それらを反映した試作品の製作、試作結果の量産形状への反映などの課程を経て、量産金型を製作し製品化(成形)を図っています。

二輪車・四輪バギー車用エアークリーナー(機能部品)の開発・基本設計～初品製作・品質確認までを担当し、量産生産は、海外グループ企業(アメリカ、インドネシア、ベトナム、ブラジル、タイ)で実施しています。今日では国内2カ所、アメリカ2カ所、インドネシア、ベトナム、ブラジル、タイと6カ国8拠点に展開し、順調に事業に専念させて頂くことが出来ました。

これからもお客様の求めるところに従い、世界を土俵に一丸となって、常に技術力、開発力、生産効率を高めて、品質第一主義を肝に銘じ、グローバルに展開すべく邁進したいと考えております。

本社（兵庫県神戸市）

http://www.yasufuku.co.jp/

世間に役立ち、なくてはならない存在となること

株式会社フクザワコーポレーション (ISO9001:2008、ISO14001:2004、OHSAS18001:2007認証登録)

管理責任者　西川 裕司

当社は建設施工・建設系システム開発を事業の核として、地域及び全国のお客様にご愛顧頂いております。私どもは、お客様が深く満足できる製品とサービスを、誠実な仕事と適正な価格で提供し続けることにより、社員とお客様の物心共に幸福な生活を実現し社会の発展に高く貢献することを定めた経営理念により、「世間に役立ち無くてはならない存在となること」を目指しております。

先日行われた、日経トップリーダー・東京商工リサーチ共同調査「本当に強い地方企業ランキング」では、全業種で長野県第1位、建設業で中部地区第1位、土木工事業で全国第1位となりました。

また、昨年長野県が発注した建設工事に携わり、優れた成果を上げるため、意欲的に取り組んだ技術者と所属会社を表彰する、長野県優良技術者表彰を受賞しました。平成16年度から開始された本制度において、今年度も弊社技術者の功績が認められ、制度開始時より12年連続の受賞となりました。

この様な高い評価を頂ける迄に成長出来たのも、お付き合いを始めて15年に及ぶ坂井社長をはじめとするインターテック(旧ムーディー・インターナショナル)・サーティフィケーションの皆様の厳正かつ的確なる審査のお陰であり、心より感謝しております。

今後とも事業の健全なる発展と環境保全を持続的に両立させながら、世界有数の豪雪地帯に立地する建設企業としての社会的責任を果たしてまいります。

本社（長野県飯山市）

http://www.fukuzawa.co.jp/

「Intertek News」電子版へ移行のお知らせ

弊社で年4回、お客様へお送りしています「Intertek News」は、この52号をもちまして、印刷版としてのお届けを終了し、電子版（Web版）へ一本化することとなりました。

「Intertek News」電子版移行：53号（2016年7月発行）～

次号発行時より、ご登録頂いておりますご担当者様のEメールアドレス宛てにご案内させて頂く形になりますので、Eメールアドレスをご登録頂いていないご担当者様、ご登録情報に変更があるお客様は、お手数をお掛けいたしますが、同封の「登録会社情報変更届」にてご登録・変更のお手続きの程よろしくお願い申し上げます。
※すでにご登録頂いているお客様は、特にお手続きの必要はございません。
他関連情報、必要な手続き等につきましては、同封のお知らせ文書をご覧ください。

電子化への移行に伴いご不便をお掛けいたしますが、何卒ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。今後も皆様にお役立て頂ける誌面の充実に努めてまいりますので、引き続きご高覧くださいますようお願い申し上げます。
ご不明な点、ご質問等ございましたら、弊社大阪事務所までお気軽にお問い合わせください。

研修コースのご案内

開催日程・開催地等、研修に関する詳細は弊社ホームページにてご確認ください。

内部監査員研修コース

マネジメントシステムの維持・改善のために必須の内部監査。その知識とスキルを身に付けます。これから導入を予定されている企業や、既に導入され更に効果的な運用を目指される組織の皆様方にもお薦めです。

- 内部監査員コース
  9001／14001／18001／27001／39001　（2日間）

開催地　東京・大阪・富山・金沢・新潟・福井・他

対象者
- 品質／環境／労働安全衛生／情報セキュリティ／道路交通安全マネジメントシステムの導入を予定／検討している
- システムをより効果的に運用したい
- 効果的な内部監査を行いたい

移行対応セミナー

ISO9001：2015、ISO14001：2015年版へのスムーズな移行に向けて、規格要求事項の考え方、各条項の詳細内容と解釈、重要ポイントなど、演習を交えて分かりやすく解説します。モデルケースの解説を元に具体的な対応策をご理解頂けるような内容になっています。

- ISO9001：2015　移行対応セミナー　（1日間）
- ISO14001：2015 移行対応セミナー　（1日間）

開催地　東京・大阪・仙台・青森・他

対象者
- ISO9001：2008／ISO14001：2004を既に運用している
- 管理責任者、内部監査員（中～上級者向け）

＊弊社ホームページよりお申込み頂けます。FaxまたはEmailでのお申込みの場合は、ホームページより申込書をダウンロードいただき、必要事項をご記入の上、ご送付ください。

受講生からのお便り

ISO9001：2008 内部監査員研修コースを受講して

品質内部監査員コース（2015年10月大阪会場）受講

関西通信電線株式会社　本社工場
製造部 押出工程リーダー　玉村 卓也

弊社は主に高発泡同軸ケーブルの製造と各種多様なケーブルの製造を行っております。

今回、品質マネジメントシステム内部監査員について知識と理解を深める為に受講させて頂きました。

今まで個人的にISOは難しいイメージとして捉えておりましたが、具体的に運用する為のキーポイントや実際の模擬ワーク体験にて、非常に解りやすく教育して頂きました。特に模擬ワークではチームにわかれて行った時に様々な観点からの質問が受講者間で飛び交い、大変貴重な体験をさせて頂きました。

今後は実践経験を積みさらに理解度を深めて、無駄・無理・ムラの無い製造を維持継続させる様に有効活用して参りたいと思います。

インターテック・サーティフィケーション株式会社　http://ba.intertek-jpn.com/　◆ HPをリニューアルしました ◆
東京事務所　〒103-0012　東京都中央区日本橋堀留町1-4-2 日本橋Nビル　TEL：(03)3669-7408　FAX：(03)3669-7410　E-mail：info.ba-japan@intertek.com
大阪事務所　〒532-0003　大阪市淀川区宮原3-5-24 新大阪第一生命ビル5F　TEL：(06)6150-0571　FAX：(06)6150-0575　E-mail：info.ba-osaka@intertek.com